

2013年6月5日

株式会社再春館製薬所
広報部

特定非営利活動法人 動物実験の廃止を求める会 (J A V A)
理事長 長谷川 裕一
化粧品プロジェクト担当理事 亀倉 弘美
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 29 番 31 号 清桜 404
TEL.03-5456-9311 FAX.03-5456-1011

冠省

「2013 化粧品等の動物実験に関する公開質問状」に対する 4 月 19 日付回答を確かに受け取りました。

その回答によれば、貴社は「2003 年 10 月以降販売している商品におきましては、動物実験を行っておりません」と記載されていますが、たとえば：

株式会社再春館製薬所のプレスリリース(2011 年 9 月 7 日)

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000003871.html>

によれば、2011 年 9 月に開催された欧州研究皮膚科学会にて発表した熊本大学との共同研究のなかで、

HSP70 発現マウスにおいて、コラーゲン・エラスチン線維の傷害が顕著に抑制された。さらに HSP70 発現マウスにおいて UV 照射後の皮膚の粘弾性の低下が抑制された。皮膚内の MMPs、エラスターゼの活性についても抑制することを見出した。これらは、熱ショックをかけたマウスにおいても同様に確認された。([1] 演題名：UV 依存性のしわ形成に対する HSP70 の抑制効果)

通常のマウスではアポトーシスの誘導などの UVB 依存の皮膚傷害が現れるが、

HSP70 過剰発現マウスではその傷害が抑制された。培養皮膚細胞においても、HSP70 発現によって、アポトーシスの抑制が確認された。さらに、UVB 照射で確認される I B- (NF- B の阻害因子) 量が減少するが、HSP70 過剰発現マウスにおいてはその反応が抑制された。([3] 演題名：UVB 依存の皮膚傷害に対する HSP70 の保護効果)

HSP70 過剰発現マウスでは、UV 照射後のメラニン産生が抑制されていることを見出した。([4] 演題名：HSP70 によるメラニン産生抑制効果)

とあるように、貴社の化粧品開発のために動物実験が行われたことが示されており、上述の貴社の回答にある「2003年10月以降」という期日は誤りもしくは虚偽にあたると思料されます。

つきましては、ご多忙のところ大変恐縮ですが、再度、質問状を送付いたしますので、誤りのないようご留意の上ご回答いただき、ご返送をお願いする次第です。回答期限は、勝手ながら、6月13日までとさせていただきます。

なお、回答をいただけなかった場合、もしくは誠実な回答がいただけなかった場合は、本問い合わせを含む今般の経緯を併せて公開させていただきますので、予めご了承ください。

不-

添付資料) 1. 株式会社再春館製薬所のプレスリリース(2011年9月7日)

2. 「2013化粧品等の動物実験に関する公開質問状」への貴社の回答